

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成27年12月1日(火) 11:00～11:50

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

発表事項

1. 吉井文美講師が第2回史学会賞を受賞
2. 大学院理工学研究科1年の高木芽衣さんが「成形加工シンポジウム'15」でポスター賞を受賞
3. 日本仏教総合研究学会第14回大会の開催
4. 有効質量ゼロのワイル電子が質量を獲得する機構を解明
5. フレックス大学院及び大学院理工学研究科機能高分子工学・有機デバイス工学専攻の上海短期研修について
6. 実践教育プログラム第2回研究報告会開催

お知らせ

1. 人文学部国際学術講演会「この都市(まち)に風をあつめて」
2. 第5回やまがた教員養成シンポジウム「今、求められる『学び』を問う」の開催
3. 『アルファ化米粉レシピコンテスト』の開催について
4. 「知の拠点庄内」第5回シンポジウム「庄内から未来を語る」の開催
5. 山形大学学生フリーペーパー「Y-a i 第7号」を発行
6. 小白川キャンパスイルミネーション点灯式を行います

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成27年12月15日(火)11:00～11:45

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

学長定例記者会見（12月1日）発表者

1. 吉井文美講師が第2回史学会賞を受賞

学術研究院 ^{よしい} 吉井 ^{ふみ} 文美 講師

2. 大学院理工学研究科1年の高木芽衣さんが「成形加工シンポジア‘15」でポスター賞を受賞

大学院理工学研究科1年 ^{たかき} 高木 ^{めい} 芽衣 さん

3. 日本仏教総合研究学会第14回大会の開催

学術研究院 ^{まつお} 松尾 ^{けんじ} 剛次 教授

4. 有効質量ゼロのワイル電子が質量を獲得する機構を解明

学術研究院 ^{ささき} 佐々木 ^{みのる} 実 客員教授

5. フレックス大学院及び大学院理工学研究科機能高分子工学・有機デバイス工学専攻の上海短期研修について

学術研究院 ^{まつば} 松葉 ^{ごう} 豪 准教授

フレックス大学院1年 ^{じょ} 徐 ^{からく} 嘉楽 さん

大学院理工学研究科1年 ^{ふくざわ} 福沢 ^{はるか} 遥 さん

6. 実践教育プログラム 第2回研究報告会開催

学術研究院 ^{あわの} 栗野 ^{たけふみ} 武文 講師

人文学部3年 ^{たかはし} 高橋 ^{かずむ} 一夢 さん

平成 27 年 12 月 1 日
山 形 大 学

吉井文美講師が第2回史学会賞を受賞

日本を代表する歴史学の学術団体である（公財）史学会が設ける第2回史学会賞が、吉井文美講師に授与されました。

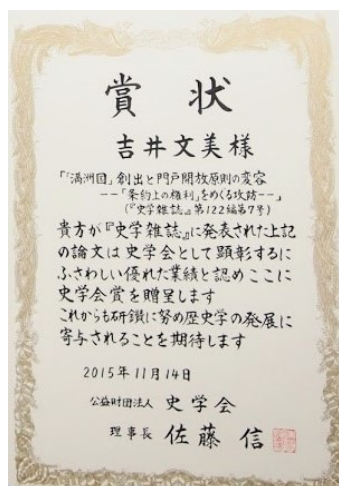
吉井文美講師が、第二回史学会賞を受賞しました。論文「「満洲国」創出と門戸開放原則の変容 —「条約上の権利」をめぐる攻防—」『史学雑誌』122巻7号（2013年）が、評価されたものです。2015年11月14～15日に東京大学本郷キャンパスで開催された、第113回史学会大会において、授賞式が執り行われました。

吉井講師の研究分野は日本近現代史で、1930年代の日本の中国占領地支配に由来する国際問題と、それが当時の日本外交のあり方に与えた影響について研究しています。今回の受賞論文は、1930年代前半の日本の満洲（中国東北部）支配に伴って生じた、外交問題を考察対象としています。

◆論文の概要

受賞論文では、1932年に日本が中国東北部に「満洲国」を作ったのち、日本外務省が門戸開放原則に関する理解をいかに変容させたのかについて論じました。具体的には、「満洲国」が石油業やタバコ業に経済統制を課したことで、日本とイギリスやアメリカとの間で発生した外交問題を分析しました。そのうえで、諸外国が中国において持っていた「条約上の権利」をめぐる問題への対応が、日本による「満洲国」の国際的承認の追求を難しくしていた構造を明らかにしました。

受賞に際しては、多言語史料を用いた実証性の高さが評価されました。



◆史学会賞とは？

史学会創立125周年である2014年に創設された、40歳以下の若手研究者の優れた研究活動に対して授与される賞です。選考を行う年に先立つ3年間（3編）に『史学雑誌』に掲載された論文が対象とされます。

（お問合せ先）
学術研究員（人文学部担当）
講師 吉井文美
電話 023-629-4928

平成27年12月1日

山形大学

大学院理工学研究科1年の高木芽衣さんが 「成形加工シンポジア '15」でポスター賞を受賞

2015年11月2日（月）～3日（火）にプラスチック成形加工学会主催の「成形加工シンポジア '15」が福岡大学を会場に開催され、高木芽衣さん（大学院理工学研究科機能高分子工学専攻修士1年、西岡昭博研究室）がポスター賞を受賞しました。（発表題目：「金属イオン種がエチレン系アイオノマー/スチレン-メタクリル酸共重合体ブレンドの溶融レオロジーとモルフォロジーに与える影響」）

◆本催しの概要

一般社団法人プラスチック成形加工学会は現在個人会員1500名、法人会員170社からなる学会です。「成形加工シンポジア '15」は、本学会が主催し、プラスチック材料・製品の成形条件に関する研究発表の場として毎年開催されます。大学の研究者のみならず、プラスチック材料メーカーの研究者、プラスチック成形加工企業の技術者まで幅広く参加し、研究発表が行われます。大学と企業の共同研究発表なども大変盛んです。今回、関連する研究分野から約100名がポスターセッション形式で発表を行い、特に優秀な若手研究者の発表に対し、ポスター賞が授与されました。

◆発表概要

「金属イオン種がエチレン系アイオノマー/スチレン-メタクリル酸共重合体ブレンドの溶融レオロジーとモルフォロジーに与える影響」

プラスチックに微量の金属イオンを含む材料を「アイオノマー」といいます。現在、ゴルフボールをはじめとするスポーツ用品や鞋底など高機能製品に数多く用いられています。最近では太陽電池部材にも応用が広がりつつあります。アイオノマーの内部に含まれる金属イオンは機能性の向上を図るコア技術ですが、金属イオンの添加量には限度があります。そこで西岡研究室では、アイオノマーと異種プラスチック材料との複合化技術を開発しました。本研究成果により、建築、土木をはじめとする軽量材や断熱材へ応用できる発泡成形品等への用途展開が期待されるだけでなく、アイオノマーの高い機能性の発現メカニズムの解明も期待されます。

（お問合せ先）

学術研究院（大学院理工学研究科担当）

教授 西岡昭博

電話 0238-26-3207

平成27年12月1日
山形大学

日本仏教総合研究学会第14回大会の開催

日本仏教総合研究学会の第14回全国大会が2015年12月13日（10時～17時）に山形大学人文学部301教室で開催されます。興味のある方は奮って御参加ください（参加費1000円）。

日本仏教総合研究学会は、日本仏教を仏教学、歴史学、文学、美術史学など多面的、総合的な視点から研究する学会です。今年は、その第14回目の全国大会が12月13日に別紙のプログラムのよう、本学人文学部で開催されます。とりわけ、今回の目玉は、戒律（仏陀の定めた規則）をテーマにした国際シンポジウムです。UCLAのボデフォード教授、ヴァージナ大学名誉教授のグローナー教授を招いて、シンポジウムを開催します。

日本仏教の特色とされる、僧侶の妻帯などの戒律軽視が、いかに最近始まった慣習であるかが再認識されるはずで、す。

また、翌日14日にはボデフォード教授、グローナー教授による講演会（参加費、無料）も16時30分から人文学部208教室で開催されます。奮って参加してください。

（お問合せ先）
学術研究院（人文学部担当）
教授 松尾剛次
電話023-628-4917

平成27年12月1日
山形大学

有効質量ゼロのワイル電子が質量を獲得する機構を説明

- 有効質量は、電子の静止質量の1/100,000程度と極めて小さい -

山形大学理学部量子物性研究室は、韓国の2大学との共同研究で、3次元ラッシュバ物質であるBiTeIがワイル電子系であり、質量ゼロとされていたワイル電子には質量があり、質量獲得機構を理論的に解明しました。

◎背景

◇理学部物理学科量子物性研究室（大西彰正教授、富田憲一教授、北浦守教授、佐々木実客員教授）では、これまで、韓国のテグ大学・ポハン工科大学などとの共同研究で、2次元ディラック電子系や3次元ディラック電子系の特異な振舞いを解明したり、3次元ディラック電子系が磁場中でワイル金属という全く新しい金属状態になることを見出し、それらの成果を物理学分野では極めて評価の高いPhysical Review Letters (PRL)誌やPhysical Review B (PRB)誌に発表してきました。

◎最も重要な発見

理論的発見1：質量がゼロとされていたワイル電子が質量を獲得する機構を理論的に解明しました。

◎その他の主な発見

新発見1：3次元ラッシュバ物質であるBiTeIがワイル電子系である事を明らかにしました。このことは誰もが予想しなかった事です。

新発見2：山形大学で測定した結果を精密に解析して、ワイル電子の有効質量が極めて小さいながらも電子の静止質量の1/100,000程度である事を見いだしました。この値は、通常の半導体中の電子の値に比べても3桁程度小さな値です。

新発見3・理論的発見2：これを反映して、ワイル電子の移動度が $10 \text{ m}^2/\text{Vs}$ という通常の半導体では考えられないほど大きく、ワイル点で発散傾向を示す事も見いだしました。この理論的説明にも成功しました。

新発見4：磁気抵抗やホール効果に現れる異常に普遍性を見いだしました。

(お問い合わせ)

山形大学学術研究院 客員教授 佐々木 実

TEL : 080-1831-5130 ; E-mail : samy-3041@io.ocn.ne.jp

参考資料 (学術研究院(理学部物理学科 量子物性研究室))

新発見 1 & 2 : 磁気抵抗MR (図1) に、通常の理論では説明不可能なエッジ状の異常を発見。これまでディラック電子系などに適応してきた金先生らの理論式で見事解析に成功し、ワイル電子系だとわかる。さらに、ワイル電子の有効質量の値を得る (図2)。

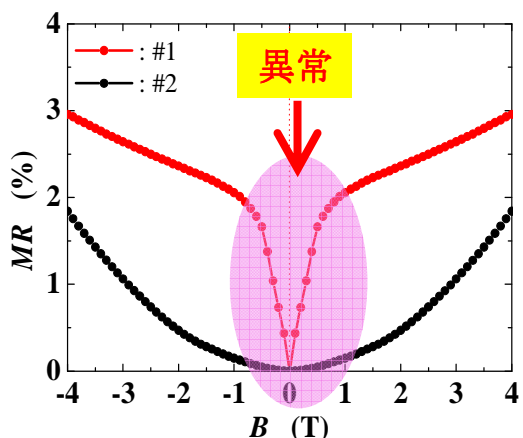


図1 磁気抵抗効果に現れる異常

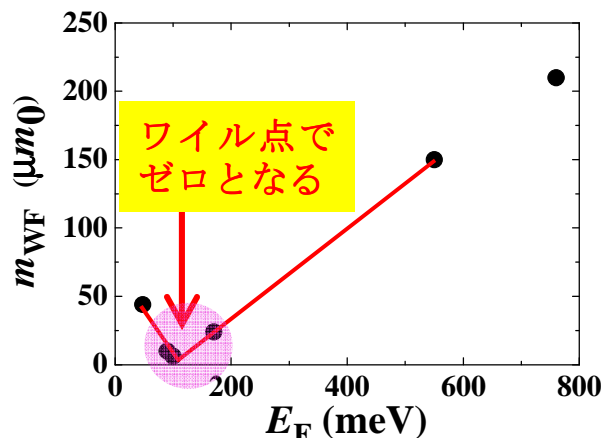


図2 有効質量のフェルミエネルギー (E_F) 依存性

理論的発見 1 : 質量獲得機構を解明

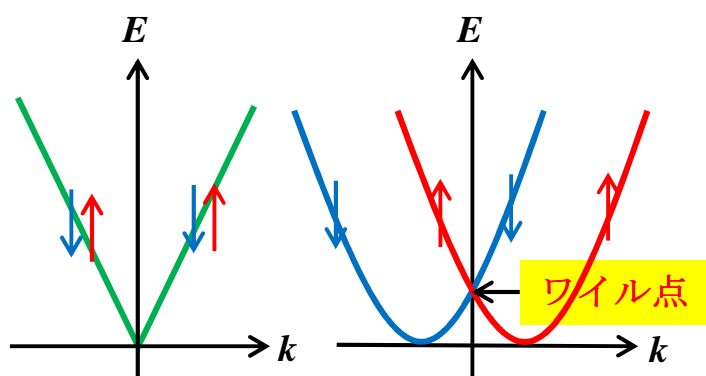


図3 (左) ディラック電子系の理想的線形バンド分散、(右) BiTeIのワープした(歪んだ)バンド分散

新発見 3 : ワイル電子の移動度 μ が常識では考えられないほど大きく、ワイル点で発散傾向を示す。これも理論的に証明

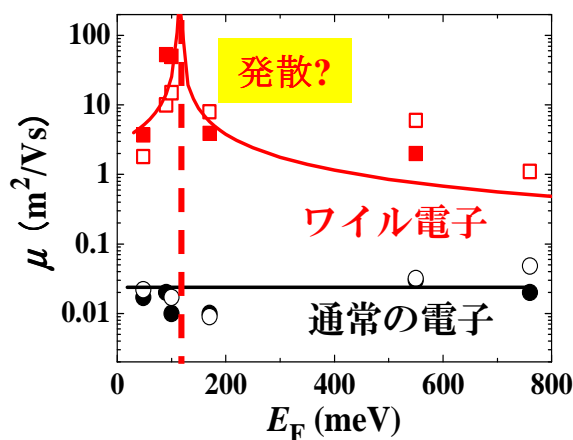


図4 ワイル電子 (赤印) と通常の電子 (黒印) の移動度の E_F 依存性

線形バンド分散 → ワープする (歪む)
質量ゼロ → 質量獲得

金先生らの新理論

平成27年12月1日

山形大学

フレックス大学院及び大学院理工学研究科機能高分子工学・ 有機デバイス工学専攻の上海短期研修について

山形大学のフレックス大学院と大学院理工学研究科機能高分子工学・有機デバイス工学専攻の大学院生13名が中国・上海市の2つの大学（東華，復旦）および3つの企業（ボッシュ，ポリプラスチックス，アルケマ）での研修をしました。

山形大学のフロンティア有機材料システム創成フレックス大学院と大学院理工学研究科（機能高分子工学・有機デバイス工学専攻）の学生をグローバルに活躍できる人材とするため，本プログラムは実施されました。

参加者 フレックス大学院 6名，大学院理工学研究科 7名 計13名

日程 2015年11月1日(日)～7日(土)

上海は国際都市の一つであり，多くの企業の研究所，工場，さらに大学があります。まず，高分子材料，有機材料に非常に強みのある東華（ドンファ）大学と復旦（フーダン）大学でそれぞれ合同の国際シンポジウムを開催し，学生同士の交流を図りました。また，教員同士もさらに交流を深めていくことを確認しました。



復旦大学にて



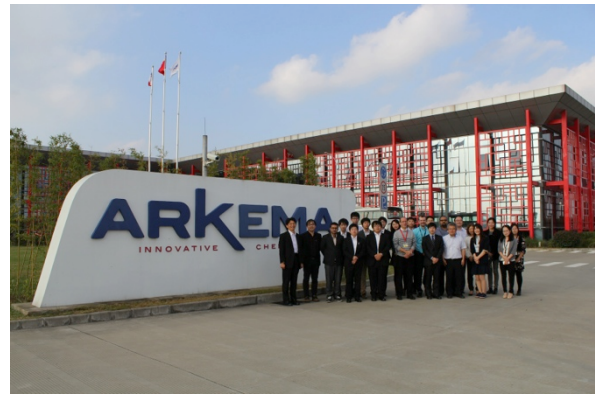
東華大学にて

企業訪問では3つの企業で実際に働いている研究者の方と議論したり，また研究所内および工場内を見学させていただきました。海外企業で働くことや日本の企業が

海外に進出するときのことなどをお聞きし、知見を深めることが出来ました。



ポリプラスチック（上海）にて



ARKEMA社（常熟市）にて

今回の会見には、実際に訪問した以下の2名の学生にも参加していただきます。

徐 嘉樂（じょ からく）さん フレックス大学院1年
（機械システム工学専攻 峯田研究室所属）

福沢 遥（ふくざわ はるか）さん 博士前期課程1年
（機能高分子工学専攻 森・中林研究室所属）



徐 嘉樂さん（東華大学）



福沢 遥さん（復旦大学）

（お問合せ先）

学術研究院（フレックス大学院／機能高分子

工学専攻担当） 准教授 松葉 豪

電話 0238-26-3053

平成27年12月1日
山形大学

実践教育プログラム 第2回研究報告会開催

2012年にスタートした実践教育プログラム企業活動スタディーズの1期生14名が今年の夏までに中期の企業インターンシップを修了しました。そこで得た学びや課題・諸問題について、8,000字以上の研究報告書としてまとめ、その概要をプレゼンテーションします。当日は受入いただいた企業様にもご参加いただきます。

1. 実践教育プログラム 企業活動スタディーズコースについて

山形県内の企業で1～2か月のインターンシップを経験し、働くことはどういうことかを身をもって体験し、実施後の専門教育や、将来の職業選択に繋げ、地域創生の為にイノベーションを起こす人材となることを目指す。

2. 実践教育プログラム研究報告会開催日時

2016年1月19日（火） 16:30～18:30（予定）

基盤教育1号館112教室

※どなたでもご参加いただけます（申込不要）。

3. インターンシップ受入企業と、発表予定学生（順不同）

株式会社セゾンファクトリー

人文学部法経政策学科 3年 高橋一夢、藤原有希

山形放送株式会社

人文学部人間文化学科 3年 菊池桃子

人文学部法経政策学科 3年 佐藤玲、早坂公宏

トヨタカローラ山形株式会社

人文学部法経政策学科 3年 原優希子、太田孝平

モガミフーズ株式会社

人文学部人間文化学科 3年 栗原美季

4. 第1回目の様子



(お問合せ先)
実践教育プログラム推進センター
講師 あわのたけらみ 栗野武文
電話 023-628-4484

平成27年12月1日
山形大学

1. 人文学部国際学術講演会「この都市（まち）に風をあつめて」

後援：人文学部映像文化研究所

講演者：シカゴ大学マイケル ボーダッシュ教授、人文学部 大久保清朗 准教授

テーマ：1970年代日本ポピュラーカルチャー

日時・場所：12月17日（木）16：30～18：30、人文学部 301 教室

*一般来聴歓迎、入場無料、事前申し込み不要

詳細は別紙通知をご覧ください。

2. 第5回やまがた教員養成シンポジウム「今、求められる『学び』を問う」の開催

◇日時：12月19日（土）10:00-16:30

◇場所：遊学館3階

◇内容：第1部ラウンドテーブル：私が求める学びー学ぶとはどういうことかー

第2部基調講演：アクティブ・ラーニングとはー学習科学の視点からー

しろみず はじめ 氏（国立教育政策研究所総括研究官）

◇対象：高校生、学生、教職員、一般の方 ※参加費無料

詳細は別紙通知をご覧ください。

3. 『アルファ化米粉レシピコンテスト』の開催について

◇日時：12月12日（土）13:00-16:30

◇場所：県立米沢栄養大学

◇主催：山形大学YU-COE（次世代バイオマス分子資源開発センター）

詳細は別紙通知をご覧ください。

4. 「知の拠点庄内」第5回シンポジウム「庄内から未来を語る」の開催

◇日時：12月13日（日）13:30-15:50

◇場所：鶴岡市先端研究産業支援センター（鶴岡メタボロームキャンパス）レクチャーホール

◇内容：基調講演「小さな島でみる大きな夢」 わたなべ ようこ 氏（合同会社とびしま勤務）

◇申込先：山形大学農学部企画広報室、鶴岡市役所政策企画課（〆切：12/20）

詳細は別紙通知をご覧ください。

5. 山形大学学生フリーペーパー「Y-a i 第7号」を発行しました

別冊をご覧ください。

6. 小白川キャンパスイルミネーション点灯式を行います

◇日時：12月1日（火）16:45～

◇場所：小白川キャンパス正門付近 詳細は別紙通知をご覧ください。

以上

平成 27 年 12 月 1 日
山 形 大 学

人文学部国際学術講演会「この都市（まち）に風をあつめて」

後援：人文学部映像文化研究所

講演者：シカゴ大学マイケル ボーダッシュ教授、人文学部大久保清朗准教授

テーマ：1970年代日本ポピュラーカルチャー

日時・場所：12月17日（木）16：30～18：30、人文学部301教室

*一般来聴歓迎、入場無料、事前申し込み不要

人文学部における日本学研究・教育の一環として、国際学術講演会を開催します。グローバル化時代の現在であるからこそますます重要性を増していく日本文化研究の最先端をご紹介できる貴重な機会であると考えておりますので、多くの市民のみなさまにもご来場をいただきたく、ご案内申し上げます。

◆概要

ロックバンド「はっぴいえんど」を題材にしながら、1970年代日本の文化状況を展望する。ボーダッシュ教授の講演について、大久保准教授（映像文化研究所副所長）が70年代日本映画に関する特別講義を行う。

◆マイケル ボーダッシュ教授プロフィール

・海外における日本文化研究を代表する研究者。その研究は日本においても大きな注目を集めており、著書*Sayonara Amerika, Sayonara Nippon: A Geopolitical Prehistory of J-POP*は異例のスピードで翻訳、出版（『さよならアメリカ、さよならニッポン 戦後、日本人はどのようにして独自のポピュラー音楽を成立させたか』、奥田祐士訳、白夜書房、2012）。

・その他の著書として、島崎藤村と日本ナショナリズムに関する*The Dawn That Never Comes: Shimazaki Touseon and Japanese Nationalism*（2003）

・日本を代表する文学者である夏目漱石や柄谷行人の翻訳者としても活躍、その業績によってスカリオーネ賞（現代語学文学協会（米）、学術研究に関する優れた翻訳の業績に与えられる）を受賞。

お問合せ先)

担当：学術研究院（人文学部担当）

准教授 森岡卓司

電話 023-628-4287

風をあらためて

この都市に

まち

山形大学国際学術講演会

2015年 12月17日 [木]

16:30—18:30 事前申し込み不要

山形大学 人文学部棟・301教室

【講演】

「思想としてののはっぴいえんど・

70年代の都市空間論と

ロック音楽」

マイケル・ボーダッシュ

シカゴ大学教授

Michael K. Bourdagh

講演は日本語で行われます

【レクチャー講義】

「そして何も変わらなかったのか

——1970年代日本映画における荒野のイメージ」

大久保清朗

山形大学准教授

引き続きトークセッション・質疑応答あり

70年代日本とポピュラーカルチャー

講演

「さよならアメリカ、さよならニッポン」の都市空間論とロック音楽

「思想としてののはつぴいえんど・70年代の都市空間論とロック音楽」



【講演者略歴】

マイケル・ボーダッシュ Michael K. Bourdaghs

1961年アメリカ・ミネソタ州生まれ。
1984年に仙台、宮城教育大学の交換留学生として初来日する。1986年にマカレスター大学を卒業し、アメリカのTV局の東京支社に勤務。1989年にコーネル大学の東アジア文学博士課程に入り、1996年に博士号を取得する。同年、UCLAの教員となり、2007年にシカゴ大学に移籍。現在は同大学で東アジア言語・文明学部の准教授を務める。過去には東北大学および国際基督教大学の客員教授を務め、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ各地の大学で講義をおこなっている。

初の著書 *The Dawn That Never Comes: Shimazaki Toson and Japanese Nationalism* (「決して訪れない夜明け——島崎藤村と日本のナショナリズム」) は2003年にコロンビア大学出版局から刊行。また、現代語学文学協会から文学の学術的研究の翻訳に贈られる賞であるスカリオネ賞を授与され、「ジャパン・タイムズ」紙が選ぶ2011年の最優秀図書のひとつとなった Natsume Soseki, *Theory of Literature and Other Critical Writings* (「夏目漱石文学論」、コロンビア大学出版局、2009年)の共訳、共編者でもある。最近では夏目漱石に関する本を執筆する傍ら、柄谷行人『世界史の構造』の英訳を完成。

▶ マイケル・ボーダッシュ WEB サイト <http://www.bourdaghs.com/>
(『さよならアメリカ、さよならニッポン』奥付をもとに作成)

さよならアメリカ、さよならニッポン
——戦後、日本人はどのようにして独自のポピュラー音楽を成立させたか
マイケル・ボーダッシュ著、奥田祐士訳、白夜書房、2012年



平成27年12月 1日
山形大学

第5回やまがた教員養成シンポジウム「今、求められる『学び』を問う」 の開催

大学院教育実践研究科と地域教育文化学部では、公益財団法人やまがた教育振興財団とともに、東北文教大学を共催として、第5回の教員養成シンポジウムを開催します。

今回のシンポジウムでは、高校生と大学生によるラウンドテーブルと、白水始氏（国立教育政策研究所）の「アクティブ・ラーニングとはー学習科学の視点からー」の講演を行います。これに加えて、今年度はシンポジウムのプレ企画として、「学ぶとはどういうことか」という高校生と大学生のゼミも開催します。

現在、「アクティブ・ラーニング」をキーワードとして、教育における新しい学びのあり方が問われています。「何を学んだか」だけでなく「どう学んだか」という「学びの質」が一層重視される変革です。学校で実際に学んでいる高校生の声にも耳を傾けながら、今回のシンポジウムでは、これまでとこれからの「学びの質」について、話し合いたいと思います。

- ◆日時：12月19日（土） 10：00～16：30
- ◆場所：遊学館3階
- ◆内容：第1部ラウンドテーブル：私が求める学びー学ぶとはどういうことかー
第2部基調講演：アクティブ・ラーニングとはー学習科学の視点からー
白水始氏（国立教育政策研究所 総括研究官）
- ◆対象：高校生、学生、教職員、一般の方 ※参加費無料

（お問合せ先）
大学院教育実践研究科
教授 江間史明
電話 023-628-4390
地域教育文化学部事務室
総務担当
電話 023-628-4304

第5回やまがた教員養成シンポジウム

今、求められる 「学び」を問う



主催：山形大学大学院教育実践研究科
山形大学地域教育文化学部
公益財団法人やまがた教育振興財団
共催：東北文教大学

第一部

<ラウンドテーブル>

10時から12時30分

私が求める学び

—学ぶとはどういうことか—

コーディネーター：森田智幸

(山形大学大学院准教授)

*高校生と大学生による議論をもとに、
参加者全員で学びについて考えます。

12月
19日(土)

10時から16時30分

会場：遊学館3階

申込方法

◆参加費は無料です。参加を希望する方は、以下のメールまたはFAXに氏名と所属と連絡先、第一部・第二部の参加について記入して申し込んでください。

◆2015年12月16日(水)を申込締切とさせていただきます。

◆定員は110名(予定)です。定員になり次第、参加申込を締め切ります。

◆第一部は9時30分、第二部は13時より受付を開始します。

問い合わせ先
山形大学地域教育文化学部事務室総務担当
TEL : 023(628)4304
FAX : 023(628)4313
E-mail : kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

第二部

<基調講演>

13時30分から16時30分

国立教育政策研究所

総括研究官

白水 始 氏

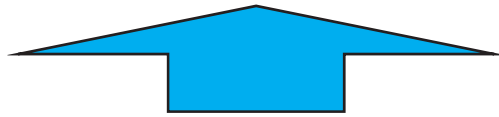


アクティブ・ラーニングとは
—学習科学の視点から—

プレ企画ゼミ「学ぶとはどういうことか」 ※高校生対象

日時：12月12日(土)・13日(日)
両日ともに13時から16時半まで
場所：小白川キャンパス地域教育文化学部
1号館会議室

学ぶとはどういうことか
高校生と大学生で議論します。



送信先: 山形大学地域教育文化学部事務室総務担当 宛

FAX: 023-628-4313

第5回 やまがた教員養成シンポジウム 今、求められる「学び」を問う

- ◆ 上記シンポジウムに参加ご希望の方は、本申込書に記入の上、上記へFAX願います。

申込締切: 平成 27 年 12 月 16 日 (水)

参加申込書【FAX専用】

氏名(代表者)	職業(ご所属)(代表者)
連絡先	電話番号
住所	E-Mailアドレス
午前のみ参加 ・ 午後のみ参加 ・ 午前午後ともに参加 ※いずれかに丸をつけてください。	
氏名	職業(ご所属)
連絡先	電話番号
住所	E-Mailアドレス
午前のみ参加 ・ 午後のみ参加 ・ 午前午後ともに参加	
氏名	職業(ご所属)
連絡先	電話番号
住所	E-Mailアドレス
午前のみ参加 ・ 午後のみ参加 ・ 午前午後ともに参加	

*お申し込みの際にいただいた個人情報は、本会のみ利用させていただき、それ以外の目的での利用はいたしません。また、本会開催後に破棄させていただきます。

平成27年12月1日
山形大学

『アルファ化米粉レシピコンテスト』の開催について

2015年12月12日（土）に、山形大学YU-COE（次世代バイオマス分子資源開発センター（センター長：西岡昭博））が主催する「アルファ化米粉レシピコンテスト」が開催されます。アルファ化米粉は、水を加えるだけで炊いたお米と同じ状態になり、炊飯をすることなく食べられる米で、非常食などに応用されています。本学理工学研究科の西岡昭博教授は、アルファ化米粉を従来の製法よりも格段に簡便に製造できる画期的手法を開発しました。さらにアルファ化米粉を用いることで、従来不可能とされていた米粉100%による製パンも可能になりました。本技術により、小麦粉を全く含まないパン、シュークリーム、アレルギー対応クッキーなどが開発され、市販化されています。

「アルファ化レシピコンテスト」は、これらの研究の取り組みの「見える化」を目的に企画されたものです。アルファ化米粉の特徴を生かした料理レシピの開発を通じて、アルファ化米粉の可能性を参加した学生自らが発見します。

◆本催しの概要

このレシピコンテストは、「あなたも米粉料理で大発明」と題し2015年9月5日（土）に開催された勉強会とパン作り体験への参加者が、アルファ化米粉を用いた料理レシピを自ら考え、実際に料理を行うことで互いに競い合うものです。料理のアイデアや味などの審査には、県内外の参画企業の方々にご協力をお願いしています。以下に開催概要を記します。

行事名： アルファ化米粉レシピコンテスト

日時： 2015年12月12日（土）13:00～16:30

場所： 山形県立米沢栄養大学

主催： 山形大学YU-COE（次世代バイオマス分子資源開発センター）

共催： 山形県立米沢栄養大学、山形大学国際事業化研究センター

参画企業：（株）セゾンファクトリー（高畠町）、（株）セイシン企業（東京都）
（株）ベーカリー中村屋（米沢市）、東北ぼんち製菓（株）（寒河江市）
（有）ヘルシーハット（仙台市）

学術研究院（大学院理工学研究科担当）

教授 西岡昭博

電話 0238-26-3207

「知の拠点庄内」 第5回 シンポジウム

庄内から

— 若者からの提言 —

未来を語る

庄内地域には、地方としては全国的にも珍しく、4つの高等教育・研究機関が集積しています。これらの機関が知を集結し、「知の拠点庄内」を立ち上げました。

このシンポジウムでは、地域への愛着・接点・想いといった視点から、4つの高等教育・研究機関の若者たちが庄内からの若い力の情報発信を行います。

日時 ● 平成**27**年**12**月**13**日(日)

13:30～15:50 (開場12:30～)

場所 ● 鶴岡市先端研究産業支援センター
(鶴岡メタボロームキャンパス)

レクチャーホール (鶴岡市覚岸寺水上246-2)



慶應義塾大学
先端生命科学研究所



鶴岡工業高等専門学校



山形大学 農学部

基調講演
13:30-14:00

「小さな島でみる大きな夢」

(司会・進行 山形大学教員)

渡部 陽子 氏 (合同会社とびしま勤務・東北公益文科大学卒業生)

稲田 瑛乃 氏 (フリーランス(工房げるぐど主催)・山形大学農学部卒業生)

佐々木一記 氏 (庄内町情報発信課・鶴岡工業高等専門学校卒業生)

村上慎之介 氏 (慶應義塾大学大学院博士課程3年・環境情報学部非常勤講師)

熊谷 夏季 氏 (東北公益文科大学4年・庄内の達人“聞き書き”プロジェクト)

佐藤 百恵 氏 (東北公益文科大学4年・庄内の達人“聞き書き”プロジェクト)

矢口 昂 氏 (東北公益文科大学2年・庄内の達人“聞き書き”プロジェクト)

発表
14:10-14:50

ディスカッション
15:00-15:30

パネリスト／各機関発表者 及び 基調講演者

コーディネーター／小沢 互 氏 (山形大学農学部教授)

● **入場無料** (入場は無料ですが、事前申し込みが必要です)

● **定員・150名程度** (定員になり次第、締切とさせていただきます)

● 申込先

- ・ 山形大学農学部 企画広報室
Tel 0235-28-2803 Fax 0235-28-2812
E-mail nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- ・ 鶴岡市役所 政策企画課
Tel 0235-25-2111 内線 525・526 まで

● 締切

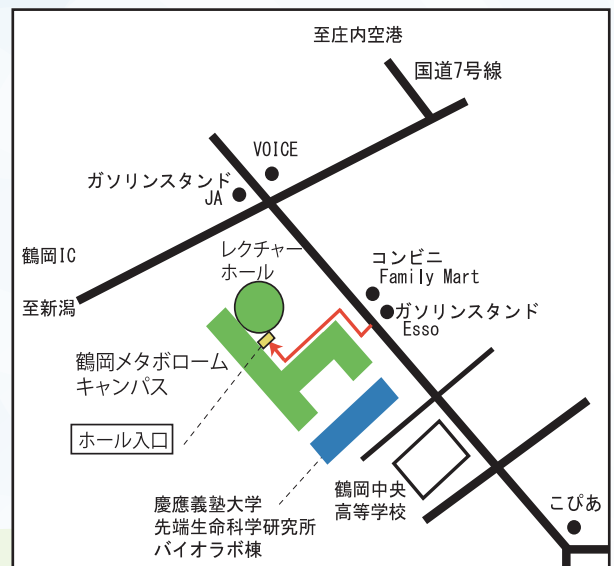
12月10日(木)

※ファックスでお申し込みの方は、下記に必要事項をご記入をご記入の上、

FAX 0235-28-2812 へ送信してください。

※E-mailでお申し込みの方は、下記情報を記載の上、

nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp へてに送信してください。



12/13 「知の拠点庄内」第5回シンポジウム 参加申込書 (FAX0235-28-2812)

● お名前(フリガナ)

● お電話番号

● FAX番号

● 参加人数(複数人でご参加の場合、ご記入ください)

人

ご記入いただいた個人情報は、シンポジウムご参加に関する手続きのみに利用し、第三者には開示・提供・預託することはありません。

**地方
創生**

平成27年12月1日
山形大学

小白川キャンパスイルミネーション点灯式を行います

今年で10年目となる小白川キャンパスのイルミネーションの点灯式を以下のとおり行います。今年も1万球のLED（発光ダイオード）が12月1日から2月末までの3か月間、キャンパスを豊かに彩ります。取材及び報道方についてよろしくお願いたします。

【点灯式概要】

日時：平成27年12月1日（火）16:45～

会場：小白川キャンパス正門付近

内容：

16:45 開会

16:46 点灯

16:50 キャンパス長あいさつ 北川忠明 小白川キャンパス長

16:52 記念演奏

(1) アカペラサークルSmile（予定）

(2) 山形大学混声合唱団（予定）

(3) 音楽研究会（予定）

17:10 閉会



昨年のイルミネーション

お問合せ先

担当：総務部総務課広報室

電話 023-628-4008